

湖西市新庁舎建設基本計画(案)のパブリックコメント
ご意見の概要と市の考え方について(結果)

1 募集期間

令和8年2月2日(月)～令和8年3月4日(水)

2 募集結果

(1) 意見提出者: 2名(提出方法 メール2名、持参0名)

(2) 意見数: 3件

No.	ページ	項目	ご意見・ご提言	市の考え方
1	12	新庁舎への集約化	行政機能を集約化とのことで、賛成です。健康福祉センターの貸館機能と保健・福祉機能等は集約しないのか。市民活動センターの会議室機能等も同様に集約されないのか。であれば、それらの建物は残存させるのか。使用されない場所が発生するなど余分な維持費が発生しないよう検討しているか。 また、取り壊し新たに建築するのであればその費用について概算はいくらか。 今回の新庁舎への集約化をしなくてよいと判断した理由や、集約化しない機能についての長期的なプランを知りたい。	貴重なご意見をありがとうございました。 窓口や執務室等の行政機能の集約化については、市民の皆様のご利便性向上や市役所業務の効率化などの観点から、これを基本的な考え方としています。 その他の機能の集約化については、新庁舎の基本設計のなかで必要面積や費用などの詳細を検討のうえ、いただいたご意見も参考にさせていただきながら、最終的に新庁舎に集約する機能を決定していきたいと考えています。
2	14	4. 新庁舎の整備方針 (2) 新庁舎の建物性能、環境性能について 1) 耐震安全性	災害時の拠点機能を確実にするため、選定地北側道路に埋設されている「中圧Aの都市ガス管」を活用した分散型電源によるレジリエンス強化を提案します。新庁舎が担う災害応急対策活動の継続(BCP)には、災害時の電源確保が重要です。建設予定地に隣接する中圧Aの都市ガス管は、60カインを超える大規模地震時でも供給継続が期待できる極めて耐震性の高いインフラです。 都市ガス事業者のインフラを活用し、停電時でも自立発電が可能な「ガスコージェネレーション」や「停電時対応型ガス空調機(GHP)」により、外部電源に頼らずとも執務環境や避難所機能を維持でき、防災拠点としての信頼性が飛躍的に向上すると考えます。	貴重なご意見、情報提供をありがとうございました。 基本設計の際の参考とさせていただきます、災害時のレジリエンス強化やエネルギーの安定確保に必要な設備を選定してまいります。
3	16	3) 省エネルギー性能について	ZEB Ready の達成と災害対応力の強化を両立させるため、エネルギー源の多重化(ベストミックス)を提案します。「ZEB=電化」のイメージが先行していますが、エネルギー源を電気に頼りすぎるとは停電時の災害応急対策活動に懸念が生じます。また、非常用発電機の運転可能時間は燃料の備蓄量で決まり、燃料切れの心配を伴うことや利用できる電気設備に制限があります。 一方、エネルギー源を電気と都市ガスに分散させる「多重化」、例えば「停電対応型ガスコージェネレーション」は、災害などで電力会社からの電力供給が停止した場合は自立起動し、電力供給を行うことが可能です。また、高効率なガスの空調(GHP)や給湯設備と組み合わせることで、電力のピークをカットし契約電力を抑える(=電気料金を抑える)とともに、一次エネルギー消費量を効果的に抑えることが可能です。エネルギーのベストミックスによりZEB 達成した庁舎の事例もあります。 ZEB の「快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることを目指す」ことに加え、災害時のレジリエンスやランニングコスト低減を含めた、持続可能で強靱な庁舎の実現を期待します。	貴重なご意見、情報提供をありがとうございました。 基本設計の際の参考とさせていただきます、ZEB Ready の達成や災害対応力の強化に必要な設備を選定してまいります。

※ お寄せいただいたご意見について、適宜要約させていただいております。